

学生さんにとって、頭の痛〜い「就職」！  
そんなあなたに「就職」についてのアドバイスをここに紹介します。

## <自己表現>としての就職活動



キャリア支援センター  
学生就職指導相談員  
田淵 孝満

■ 大江健三郎氏は、「人間とは、誰でもどこかで自己表現をしたいと願っている生きものだ」と述べています。氏の障害をもっているご息子・光さんも、ピアノを習っているうちに、自分で作曲するようになったそうです。人は表現する手段さえ与えられれば、自ずから自己に内在する可能性を表現することによって、生きるこの意味を見出し、自己実現を目指すのでし

う。

子どもにとっての日常生活での遊びや勉強、学生時代の学問、芸術、スポーツ等の諸活動はすべて、その成長段階に応じた<自己表現>とみることが出来ます。

社会人として仕事（職業）に就くことは、全人的発達の一部としてのキャリア行動であり、自分の存在を掛けて、社会に有形・無形の貢献をするという<自己表現>活動です。言葉を変えると、この<自己表現>活動の積み重ねが人生であり、自己実現は<自己表現>の結果として達成されると云えるでしょう。

■ これから就職活動を始める（あるいは活動中の）学生にとって、<就職活動>は、<自己表現>の「場と機会」としての<仕事（職業）>探しではありますが、<就職活動>そのものが<自己表現>活動であることを、しっかり自覚して頂きたいと思います。

エントリーシートや面接試験で的確に「志望動機」、「自己PR」を述べるためには、何よりも自分を知る必要があります。<自己表現>をするためには、<表現すべき自己>を持っていなければなりません。「自分は何者であり、どこから来て、どこへ行きたいのか」を考えることです。つまり、<自己表現>とは自己発見のことだからです。<自己表現>というのは他人と違う自分を見せるということでもあります。

■ シェクスピアは、「この世は舞台、ひとはみな役者」(All the world's a stage, And all the men and women merely players.)と云っています。この言葉の背景には深い意味があるのですが、就職を目指す学生のコンテキストで考えると、「舞台」とは<仕事(職業)>、「役者」とは仕事を通して<自己表現>する自分自身と捉えることが出来ます。見方を変えると、就職活動に臨む学生は、『人生という舞台に立つためのオーディション』を受けている立場と云えるかも知れません。

そこで、あるボーカリスト(歌手)のオーディション対策のノウハウを公開しているホームページを調べてみました。以下、具体的に「ボーカリスト」を「あなたが目指す仕事」に読み替えてみてください。期せずして、就職活動のポイントが凝縮されています。

● どのジャンルの歌が受かり易いかには関係なく、逆に「自分がどのジャンルでどう表現したいのか？」を理解しておく。

● キャラ勝負の人、歌唱力勝負の人、表現力勝負の人、自分がどこで勝負するか?を決めて、それを一番表現しやすいジャンル、または楽曲を選ぶ。

● (有名)歌手のまねはすべて、審査員にとっては悪印象。とにかく「今までにいないアーティスト」というのを基準に審査員は評価。堂々と、今ある自分をまずは思いっきり表現しよう。

● 何より普段から「第三者に聴かせる」というトレーニングが大事。そのために、日々ライブを重ねたり、ボイストレーナーの前で歌ったり。そして、当日は精一杯自分に自信を持って、アーティストに「なりきる」こと。

■ キャリア支援センターにおける「就職相談」では、<自己表現>としての<自己発見>のお手伝いから、『人生舞台に立つためのオーディション』(面接)対策まで、就職活動のあらゆる段階でお役に立てる相談サービスの提供を目指しています。

また今年度からは、女性相談員の方も参加していただき、相談内容もさらに幅広いニーズに対応出来るようになりました。全学の学生の皆さんの積極的なご利用をお待ちしております。



# 特集 就職

## 今から動く！



教育学部  
学生支援専門委員  
阪根 健二

就職支援は、“出口指導”が重点の本学において、重要な学生支援です。教育学部においては、教員を目指す学生と、公務員・民間などの就職希望の学生が混在しています。そのため、様々な支援セミナーなどを開催しております。

しかしながら、就職の多様化が、個々の学生の就職への意識に微妙な影響を与え、就活の情報収集や開始時期の遅

れが目立ちます。今何が出来るか？何をすべきかを考えることが重要なのです。

幸い、教育学部には、学生の自主的な運営で就職を考える「就職自主サークル」が動いています。この動きは、まさに個々の学生の就職への意識向上が主たる目的であり、学生支援専門委員会もバックアップしています。毎週月曜日18時から、821教室に、30名から50名程度の学生が集まり、教員志望にかかわらず、民間就職希望

者も含めて、講演企画や勉強会などを行っています。これは、3名の世話人の学生（すでに就職が決まっている4年生）によって運営されていますが、後期のテーマは、“時事問題に強くなろう”で、就職に必須の“時事問題”を中心に、“昨今の時事内容”を説明できるロールプレイや、定番の集団面接の練習などを行っています。

もし、“地球温暖化”を正確に説明できますか？と聞かれると、皆さんはいかがでしょうか。そんな力をつけたいという思いなのです。その一つの目標に“ニュース時事能力検定”の資格取得があり、12月には準会場として、多くの学生が挑戦します。この検定問題は、就職試験の一般教養と酷似しているのです。

また、就職に必要な力として、社会貢献があります。そこで、教育学部の学生組織であるSUNと一体となって、毎週火曜日の朝、校門清掃などのボランティアにも取り組んでいます。

これらは、一人では出来ません。仲間がいてこそ出来るものばかりです。どうしても、腰があげられない、何をしたいのかあせってしまうという声が聞こえてきます。だからこそ、今から動くことが重要なのです。まもなく、3年生への世話人交替の時期です。是非、立候補して欲しいと思います。ともかく、動いてみませんか。



## 「やりたいことを見つけよう」—早めの計画—



法学部  
就職委員  
浪花 健三

昨今の就職戦線は、数年前に比べると明るい状況といえます。しかし、この状況がいつまで継続するかは微妙です。今、就職するみなさんには、数年後の日本経済は関係ないかといいますが、そうともいえません。企業の状況が良いときに採用された従業員は、当該企業経営が苦しくなると「リストラ」の選別対象とされます。

その時に重要なのは、あなたがその企業にとって「必要な人材」になっているかどうかです。今すぐにはなかなか優秀な人材ではないかも知れません。あなたが必要な人材になるためには、自分を磨く必要があります。そのためには、あなたが「自分のやりたいこと」をやる必要があるのではないのでしょうか。

日本の学生で、大学に進学する時点で、すでに将来の仕事を決めている人は殆どいないと思います。卒業するときになっても、まだ自分が何をやりたいのかよくわからないという学生さんが殆どでしょう。それは今まで、日本の多くの大学が、そのような「将来何をやりたいかを考える」ようなトレーニングを行ってこなかったからです。逆に、「そ

んなことを考えないトレーニング」を受けていたともいえます。

会社に入れば、それなりに忙しいです。そんな中で、やりたいことを見つけるのは非常に困難です。あなたが、「やりたいことは何だったかな？」と思いつくころには年をとっています。いろんなことを考えられるのは、学生時代しかないともいえます。

こんな寝ぼけた状態の学生さんを刺激する目的で、今年、本学の各学部は「キャリア支援講座」を開講しました。法学部では、「法律関係専門職業の研究」という講座を開講しました。みなさんも、卒業するまでに、是非、自分のやりたいことを見つけてください。そうすれば、必ず、あなたの夢は実現します。



「法律専門職業の研究」の一風景



新日本監査法人(大阪事務所)を訪問

# 特集 就職

## 私の考える「コミュニケーション能力」



経済学部  
就職委員長  
大野 拓行

経済学部において長年、就職委員長として学生諸君の就職活動をみてこられた堀井先生の後を引き継いで、今年度から就職委員長をすることになりました大野です。よろしく申し上げます。私自身は学生時代、就職活動は行ったことはなく、また、教員になってからもゼミ生の就職活動の相談にのってきた程度ですので、学生諸君に「こうすれば就活戦線を勝ち抜けることができる」というような秘策(?)を授けることはできません。そこで、ここでは、昨年度から就職委員をやってきたの雑感を述べさせていただきたいと思います。

昨年度の「学園の志おり(第11号)」にも、堀井前委員長が書かれているように、企業が学生に求めているものは、「熱意・意欲・積極性」と「コミュニケーション能力」だと私も感じています。ここでは「コミュニケーション能力」について、3点ほど雑感を書かせていただきます。

①「コミュニケーション能力」は単なる人づきあいの良さではありません。学生諸君の中には、自分は学生時代、接客のアルバイトをしていた、あるいはサークルに所属し

ていたから「コミュニケーション能力」には自信があると考えている人がいますが、企業が要求している「コミュニケーション能力」は単なる人づきあいの良さではありません。堀井前委員長が「コミュニケーション能力とは人との関わりの中で、多くの知識を持った上でのその時々での最善の判断(言語および行動)をする能力」と書かれているように、「コミュニケーション能力」にとって、「知識量」と「柔軟性」が重要です。話し方がたどたどしくても、豊富な知識を持ち、状況に応じた話し方ができる人材が望まれていると感じます。

②面接においては「コミュニケーション能力」を見られています。就職試験では1次が筆記試験、2次以降が面接というパターンが多いようです。面接において、面接官は「知識量」よりも、質問に対する対応の「柔軟性」に重点を置いている感じがします。1次の筆記試験で「知識量」はある程度、把握できるので、面接ではいろいろな質問に学生がどのように対応するかを見ているのではないのでしょうか。その意味では、答えに窮する質問にどう答えるかも重要なポイントだと思います。'

③「コミュニケーション能力」を磨くためには読書が重要です。「コミュニケーション能力」を磨くためには積極的に人と関わり、状況に応じた対応を訓練することは重要ですが、学生時代に多様な状況を経験することは困難です。読書は単に「知識量」を増加させるだけでなく、「考え方」や「ものの見方」について、多くのことを教えてくれます。その意味で、学生時代に専門書だけでなく、広い範囲の多くの本を読むことが大切だと思います。



## 工学部・大学院工学研究科の就職状況と就職指導体制



工学部  
就職指導部会長  
平田 英之

工学部は特に企業との結びつきが深い学部で、企業や官公庁出身の教員も多数います。企業で実際に採用側として活動をした経験のある教員も多数いて、採用側の視点に立ち適切なアドバイスを与えることができます。就職指導は、実際には各学科の就職指導教員が中心となって、企業からの求人情報の紹介、学校推薦をする場合その推薦学生の選考、そ

の他就職に関わる指導を行います。

まず自由応募と推薦応募の違いについて説明します。自由応募は、学生が自由に活動を行うもので、複数の企業から内定を受けてもその中から自由に行き先を選択できます。推薦応募は、学校名(工学部では学部長名)の推薦書を受けて受験するもので、推薦応募の場合、自由応募より合格の可能性が高くなったり、選考の段階が省略されて最終面接だけになったりします。その代わ

り推薦応募で内定となった場合には、辞退は絶対に許されません。他大学の昔の工学部の就職では、ほとんどの学生が推薦応募でしたが、最近では、推薦応募を選ぶ学生は少なくなっています。実際にどのような企業から推薦依頼がくるかは、年度によって違いますが、2007年度は、日本のほとんどのトップ企業から推薦依頼が来しました。実際に推薦を受けて、それらの企業に内定した学生が多数います。推薦応募にするかどうかは、慎重に考えておいて下さい。

次にインターンシップについてです。これは、なぜ働くのか、技術者として働くとはどういうことかを考える上で重要なものです。当然、就職の際の面接でもこの経験がものすごく役に立ちます。インターンシップには、積極的に参加しましょう。

最後に、先輩との繋がりについてです。工学部では数年前に企業に就職した先輩が、大学にやってきて、会社紹介をしてくれる機会が随時あります。先輩としての本音の話や体験談やアドバイスをしてくれます。希望の企業でなくとも参考になる話が時々ありますので、そういう機会には積極的に参加して下さい。

就職の実績については、学部案内のパンフレットのp14~15に掲載してあります。参考にして下さい。

## 就職活動とキャリア教育



農学部  
学生支援委員長  
川浪 康弘

農学部では、2年前より、就職委員会と教務厚生委員会の一部を合わせて、入学時の学生生活、修学に関するアドバイスから、就職活動の支援まで4年一貫した学生の支援を学生支援委員会が担当しています。すでに、10月4日に第1回の就職ガイダンス、10月25日には農学部主催の「企業説明会」を開催しました。28社の企業および約120名の学生が参加し、

学生はリクルートスーツに身を包み、真剣な表情で採用担当者の話に聞き入っていました。この原稿が「学園の志おり」で読まれる頃は、すでにエントリー、会社説明会、面接へと就職活動が進んでいると思いますので、ここでは面接にとって最も重要なコミュニケーション能力について述べます。

### □コミュニケーション能力とは

ほとんどの企業が学生に求める能力は、コミュニケーション能力であるというアンケート結果が出ています。この能力は、さらに1) 理解力、2) 洞察力、3) 言語能力という3つの能力からなると考えられます。まず、相手の質問をよく理解し、何を聞きたいのか考え、それに応じた自分の答えを適切な言葉で表現することです。抽象的な言

葉やマニュアル的な受け答えでは、全然大面接官には響きません。より具体的な体験、エピソードを、自分の言葉で話してください。

また、現代の若者は同級生、仲間同士のつきあい(タメ口)が多く、社会人の会話マナーがなっていないと言われています。日頃から、サークルや研究室内で先輩や指導教員との会話を積極的にして欲しいと思います。

### □1、2年生へ

今年度より、農学部では1年生の授業の中で、社会人、OBによる講演を2回行い、キャリア教育に力を入れています。就職は先の話と「ただなんとなく過ごす」と、「将来こうなりたい、自分に適した仕事をしたい」と目標を持って過ごすのでは、大きな違いが出ます。まずは大学院に進学するのか、就職するかを真剣に考え、それに向けて充実した学生生活を送ることが、就職活動の一番の近道です。

